ＮＰＯ法人 京都中也倶楽部たより

第2号

2008年8月発行

おかげさまで数人の有志で起ち上げた『京都中也倶楽部』も一年（NPO化からは８ヶ月）を迎えました。この８月には上御霊神社のさえずり市に参加し、９月には「京都メディフェス」、10月には京都府の「地域力再生コラボ博覧会」と、より地域との密着度も増して参りました。

少しずつ、京都の中也ファンも増えていっている（？）のではないかと思いながら、日々をめまぐるしく過ごしています。今年は会員さん達とより一層の参加型イベントを企画していきたいと思いますので、今後ともどうかよろしくお願い致します。

イベント報告

二〇〇八年二月一七日
「第一回　茶話会」

京都中也倶楽部の事務所がある町家にて、第一回の茶話会がありました。参加者は三人と、寒いせいか淋しかったですが、それでもしんとした中で、中也へ思いを馳せる機会ができました。山口で売られているお菓子を食べながらお茶を飲み、話をしました。

中也のお菓子とともに

町家の庭

中也倶楽部たよりを読む参加者

二〇〇八年四月一～一五日
「あの頃、中也のいた京都展　パートⅡ」

中原中也記念館や大阪府立大学の中村治先生、河原町今出川の米田様、山口出身の原田様、仏光寺の彼方此方屋様のお力を借りて、半月間、京都府庁旧館のＮＰＯ推進室にて、昨年好評だった「あの頃、中也のいた京都展」が更にグレードアップして開催されました。開催期間中、常駐できなかったＮＰＯスタッフの代わりに、府庁の職員の方に、随分お世話になりました。この場をお借りしまして、深く御礼を申し上げます。

京都府庁旧館

展示の様子

今回は、当ＮＰＯ内で資料不足であった、京都時代の中也の足跡を辿るのに必須の正岡忠三郎日記のことで、中原中也記念館の方に随分お世話になりました。記念館の皆様、本当にどうもありがとうございました。これからは、京都中也倶楽部でも、京都の方達からの情報をもっと収集して、京都の中也像に迫りたいと思いますが、今後ともよろしくお願い致します。

二〇〇八年四月二〇日　「第二回　茶話会」

初めてお会いして、会員になって頂く方もいらっしゃって、つい写真を撮るのを忘れましたが、町家で第二回の茶話会が開催されました。

二〇〇八年四月二九日
「中也の青春、ＲＩＯの青春～ｉｎ京都」

中也ファンにもお馴染みの如月伶生さんのライブを「ギャラリーカフェふじひら」さんにて行いました。当日は伶生さんのファンと中也のファンが会場につめかけ、可憐な伶生さん扮する中也に一同、酔いしれました。

にぎわうライブ

二〇〇八年六月二二日　「第三回　茶話会」

沙羅の花を愛でる会に参加しての第三回目の茶話会。昨年の紅葉散策に引き続きのサプライズ。鎌倉・賢治の会でもお馴染みの大阪府立大学名誉教授の金子先生のお話を聞きながら、妙心寺南門前の『阿じろ』さんで精進料理を頂き、沙羅を見に行きました。たまにこういうサプライズに出会えるのも、当ＮＰＯの魅力です。

お話をされる金子先生

ＮＰＯ法人　京都中也倶楽部たより　VOL.2

投稿詩コーナー

俳句十吟

長澤普天

┤　夏衣　├

夏衣軽（かろ）き余生を吾（あ）は持てり

夏衣軽みに至る俳諧史

夏衣朝の光の透りけり

夏衣風のいのちをとらえけり

夏衣あといくばくの残余生

┤　葱坊主（ねぎぼうず）　├

葱坊主坊主なりやこそ坊主の句

風もよし雨もまたよし葱坊主

長かろうが短かかろうが葱坊主

のびきったところで光る葱坊主

在りざまを身に引き寄せて葱坊主

会員募集

ＮＰＯ法人　京都中也倶楽部では、会員を募集しています。入会金はいずれも不要です。なお、入会時期にかかわらず、四月から翌三月が会期ですので、ご了承下さい。

■個人会員　年会費　三千円
（会誌への投稿・交流会への参加特典等があります）

■団体会員　年会費　一口五千円で二口以上
（会誌への広告やＨＰでのバナー等特典があります）

※入会ご希望の方はホームページから申込書をダウンロードするか、下記までお問い合わせ下さい。

会報について

この会報は、『ＮＰＯ法人　京都中也倶楽部』が年一回の予定で発行する会員のための冊子です。京都中也倶楽部の個人会員の方には無料で一部（法人会員の方には一口につき一冊）お送りしていますが。規定部数以上あるいは会員以外の方でご希望の方は、一部二百円＋送料八十円（何冊でも）にてお送りします。また、ホームページからはどなたでもご自由にＰＤＦがダウンロードできます。

特定非営利活動法人　京都中也倶楽部

http://www.chuya.org

〒602-8233
京都市上京区葭屋町通中立売上る
福大明神町128　西陣町家スタジオ内
FAX/075-431-2250
TEL/075-801-3025
E-mail/info@chuya.org

大正末期前後の建築物（もしかしたら中也も知っていたかも？！）である西陣町家スタジオの一室で活動しています。新聞の抜き刷りや本を置いています。茶話会等でご覧頂けますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

中也への旅①　山口市

湯田温泉界隈

旅の始まりはいつも高田公園の詩碑。湯田温泉駅に着くと、いつもまっしぐらにここに向かい、中也の詩碑の前にしばし佇むのが常だ。ある時詩碑を眺めていたら、いきなり子ども達がすべり台がわりに遊び始めたことがある。突然の出来事に目を見張って見ていると、一人の子どもが機敏にそれを察してか、別の子どもを諌めた。「バチがあたる」と。私はすぐさま不躾な視線を子ども達に浴びせていたことを心の中で詫びた。元より子ども好きの中也、子ども達が詩碑で楽しく遊ぶことは大本望だろう。

またある時は、たまたまとったホテルの窓から外を眺めると、詩碑を見下ろすことになったことがある。それはそれで思いがけない出会いで、何度もシャッターを切ったことがある。

この詩碑は、いくつかある中也の詩碑の中でも一番最初に建った詩碑である。小林秀雄の字になる「これが私の故里だ／さやかに風も吹いてゐる／あゝ　おまへはなにをして来たのだと……／吹き来る風が私に云ふ」という、いささか意味深な省略のある詩が刻まれている。

山口出身で京都在住の原田さんは、この詩にひかれてやまないと言う。山口出身で各地に点在した人々のみ共有しうる、この詩への思いというものが歴然とあるに違いない。

高田公園の詩碑

ホテルから見下ろした詩碑

ザビエル記念碑

山口観光でザビエル記念碑があるが、湯田温泉の中心街から駅方面に向かい、更に東に向かう園内にザビエル記念碑がある。これは中也の大叔父さんであり、養祖父である政熊氏がビリオン神父との交友によって建立されたものである。

ザビエル記念碑

山口旅行には必携の中也の弟・中原中也と祖先たち』によると、氏はこの記念碑の実現を前に亡くなったあとオン神父が山口カトリック教会史の一コマとして政熊の霊を祝福し、遺体はカトリック墓地に土葬したとある。翌一周忌に中也の筆になる「中原政熊夫婦之墓、ペトロ・六十八歳、大正十年五月十八日」と刻んだ墓標が建った。

私は近年、その墓地を訪ねようとしたが、見あたらない。あとで聞くと、その墓地は道路拡大で立ち退きになり、政熊夫婦の墓は、やはり中也の筆になる「中原家累代之墓」のそばに移された。

中原家累代之墓

墓の写真

山口旅行に行くと、毎回ではないが、８割くらいの確率で墓参りをする。お墓のある吉敷には、学生時代は歩いて向かったものだが、最近は車が多い……というくらいの距離だ。すぐ裏の竹藪と川を眺めると、何とはなしに、思い出すのは『骨』だ。

故郷の小川のへりに、
半ばは枯れた草に立つて
見てゐるのは、――僕？

そういえば山口を訪れるのは、秋か冬が多い。

その他

今回は、私が一番最初に中也への思いを抱きながら歩き回った、山口市内の随所を書いた。当時、まだ中也記念館はなく、生誕の地と書かれた碑は、駐車場だったように思う。

他に回ったのは、中也の通った小学校や、鼓ノ滝、熊野神社等である。

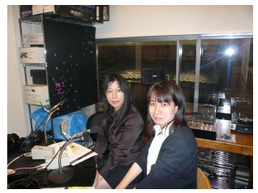
国道沿いに電電公社（現在のＮＴＴ）があり、中也のテレカを買いに行ったことも今でも鮮明に覚えている。

生誕の地

下宇野令小学校跡

ラジオカフェに出演

去る五月九日、特定非営利活動法人きょうとＮＰＯセンターのラジオ番組に出演させて頂き、京都時代の中也を中心に話をさせて頂きました。リクエストした伶生さんの『汚れっちまった悲しみに』が哀愁を誘いました。


DJの水越さんと

中也の本棚

ルソー『告白録』

かなりの独断的な感想かもしれないが、何故中也がルソーにあまり興味を持たなかったか、理解できない。中也は詩人であったせいか、日本のランボーなどと表されているが、中也の生き様を見ていると、たくましい人生で彩られたランボーではなく、年をとるごとに暗雲立ちこめていくルソーとどうしてもオーバーラップしてしまう。

これは単に私が同じ時期にこの二人の本を読みあさっていたからだけの、センチメンタルな感情に過ぎないのだろうか。勿論、中也の時代が既にルソーが日本で流行った時を過ぎていただけのことかもしれない。或いは昔、「ルソーが好きです」と告白した時の、日本研究にやってきたオランダ人学生の狼狽ぶり、「ありえない！」という第一声のあとの根拠提示で、「日本人は民主主義の対局にある民族だ」とその説明をしたように、ルソー像というものがイデオロギー的要素をまとっているためなのかもしれない。

それでもなお疑問に思うのは、中也が読んだのは確か『告白』（原題はLes Confessionsで、昔は『懺悔録』、今は『告白』と訳されている）であるので、もっと別の本に進んで読んでいってもおかしくないはずだと思うのである。

…と前置きが長かったが、ルソーの著書にはそれぞれの分野に影響を与えたものがあるが、その中で文学界に一番影響を与えたのがこの本だ。これは自叙伝ではあるが、後の「私小説」という分野開拓に寄与した。『告白』というタイトルの書物では、世界の中でアウグスティヌスと双璧の書物だ（多分）。

幼い時の母の死。逃亡した時に見かけだけ追いかけてあとはほったらかしにした父親。しかし年上の恋人・ヴァランス夫人との出会いなどがあるせいか、若い頃の彼は幸せなトーンで綴られる。一方、ヴァランス夫人に捨てられ、時代の寵児・ヴォルテールやディドロ、ダランベールとの交友の変遷は彼に深刻な憂いを与え、最晩年の著述『孤独な散歩者の夢想』での諦観を待つまでの間、非常に辛いものとなっている。（倉橋弘美）

※この文章に関するご意見や指摘などございましたら、是非京都中也倶楽部までお願いします。

ジャン＝ジャック・ルソー
Jean-Jacques Rousseau
1712/06/28-1778/07/02

スイス生まれのフランスの思想家。啓蒙の知性偏重と社会の不合理をはげしく批判し、フランス革命にも大いに影響を与えたと言われる。教育論を説きながら、自分の子供を五人捨て、芸術を否定しながらオペラを制作する。彼のオペラ『村の占い師』はモーツァルトにも影響を与える。また、彼の著述の中には天才音楽家に驚嘆を覚えている箇所があり、更にその注釈に、もっとすごい音楽家（＝モーツァルト）が出た、とある。

主な著書は『学問芸術論』『人間不平等起源論』『社会契約論』『エミール』『告白』『孤独な散歩者の夢想』など。

■中也の読書遍歴の中から、一冊を取り上げ、その内容を説明したり、中也との関連を思いつくままに書いているコーナーです。中也と同じ本を読むことによって、中也の詩や中也自身を理解しようというのが目的です。京都中也倶楽部の会報制作スタッフが哲学が好きなため、主に哲学書をとりあげていきたいと思います。他の分野の本のことを書いて下さる方がいらっしゃいましたら、是非ご投稿下さい。

今後のイベントの予定

二〇〇八年

八月
- 特別茶話会（山口先生の講演）
- さえずり市出展
- 京都メディフェス出展

九月
- さえずり市出展

一〇月
- 地域力再生コラボ博覧会参加
- あの頃中也のいた京都展パート３
- 特別茶話会（笠井心さん講演）
- さえずり市出展

一二月
- 特別茶話会（『眠れ蜜』上映）
- さえずり市出展

京都中也倶楽部のこれからの活動

〈ＳＮＳサービス〉
なかなかサービスが開始できていませんが、今しばらくお待ち下さい。

〈茶話会〉
現在事務所以外での開催を計画しています。詳細は決まりましたらホームページにアップしますので、よろしくお願い致します。

古い写真を探しています

『あのころ京都の暮らし』の著書でお馴染みの中村治先生が、昭和三十年代まで古い写真を探しています。

「これはいつの写真だろうか」と疑問に思われる写真も鑑定してもらえるかも？ご興味のある方は、末尾の当団体の連絡先にひとまずご連絡下さい。追って中村先生にお知らせします。